

第四回事業所訪問 こんにちは健保組合です！ 陽品運輸倉庫株式会社 の巻

海や山へ繰り出すのもためらうような「梅雨の明けきらない夏」に終了した夏休みも過ぎ、子どもたちは新学期に向けて元気に登校していきました。

皆さんも彼らの元気に引っ張られるように二〇〇三年の締めくくりに向け、気合いを入れ直して日々の仕事に精を出されている今日のごろだと思えます。

今年の夏を振り返ると、冷夏に加えて、東北地方の地震や緊迫す



鈴木輝彦社長

いただいたそうです。鈴木社長曰く「このネーミングには初心を忘れないという自らへの戒めが込められている」ということでした。

当時は、おそらく臙ろげな発想だったのですが、現在の運送事業を考えると必要不可欠な「総合物流」をこのときから視野に入れられていたのでしょうか。

「人がやらないことをやってるだけですよ」と森常務は謙遜されましたが、特化したサービスを売りにした、また、そうした先見性が、不況下に強い頑強な企業をつくりあげたのだと思えました。

クリーンエネルギーとして期待されるLPガス

同社が主に運搬するLPガスとは、液化石油ガス (Liquefied Petroleum Gas) のことで、原油採掘や石油精製時に発生するガスの主成分であるプロパンやブタンを液化したエネルギーです。

LPガスは、ガソリンなどに比べて歴史は浅いようですが、地球の環境を考えたとき、経済的で安全な、低公害なクリーンエネルギー

る朝鮮半島情勢など、ついでを向いてしまいがちな話題が先行していました。

太陽が夏の活躍の物足りなさを補うかのごとく照りつける厳しい残暑のなか、元気になるお話があるか、期待して、事業所訪問の第四回目としてお邪魔したのは、市原市に所在する陽品運輸倉庫株式会社でした。

* * *

私たちが向かったのは、房総半島のほぼ中央に位置する市原市。

ここは、北には東京湾、南には大福山(別名カブト山)、市を南北に貫くように清澄山系に源を発する養老川が悠々と流れています。

臨海地区のコンビナート群と養老溪谷や高滝湖をはじめとした自

らとして今後、需要がますます増えるものと期待されているそうです。「環境の問題は国、国民、各企業が自主的に解決しなければならぬ課題であり、地球的規模での環境保全に貢献するよう努力する」という、経営理念を掲げる新日本石油ガスが同社の主な取引先です。

環境への対応は一朝一夕にはいかない部分が多くありますが、わが業界が抱える諸問題と密接に関係のある将来のエネルギー像に関しては、もっと広い視野で議論しなくてはならない時期がきつと来ることでしょう。

国を挙げて

社会保障制度の充実を

話題は、社会保障制度関係に移ります。まずは制度へ加入する意義についてお聞きしました。

鈴木社長は、企業経営が厳しくなると、福利厚生面の経費を削らざるを得ない最近の状況を憂い、もつと国を挙げて社会保障制度の重要性についてアナウンスすべきというのが持論です。

然美が融合する二八万人の人口を擁する町です。

国道一六号から通称市役所通りに入り、少し折れたところに今回の目的地がありました。

私たちが到着してすぐに視界に飛び込んできたのは、大きなタンクローリー車の溶接作業が行われている光景でした。

後にお聞きしたのですが、同社は全国的にも数少ない高圧ガス保安協会の認定を受けた「容器検査所」も本社構内に兼ね備え、一般車両の車検整備に及ぶまでトータルで物流をサポートしている企業なのです。

すべての責任は

運ぶものを知ることから

本社事務室のある社屋二階に足を運び「こんにちは健保組合です」とごあいさつすると、今回の取材にご多忙のなか、お付き合いくださった鈴木輝彦社長が私たちを出迎えてくださいました。

健保組合の健康管理事業等推進委員をお願いしている森正生常務が加わり取材が始まりました。

将来の安心した生活設計がみえなければ年金不信は払拭できないし、社会保険の加入についてもつと他の制度と連携したしくみの構築が必要だともおっしゃいました。

次に、氏自身の年金については、会社設立と同時に社会保険の適用事業所となり、以来三〇年間、被保険者としても保険料の納付をされてこられた結果として、まもなく受給権が発生するそうです。

「まじめに払ってきたご褒美かな」と笑顔で語られたのが印象的でしたが、氏にとって年金が生活の糧のすべてではないことは当然でしょうが、こうした喜びをみんなに知ってもらいたいという前向

最初の話題は、久しぶりに一万円台を回復した平均株価を背景に、景況感についてお聞きしました。

「景気回復の実感はまだまだ、運賃値下げ傾向は依然続いている」と鈴木社長は厳しい現状を語られました。しかしながら、グループの売り上げ自体は若干ではあるようですが、右肩上がり基調だそうなんです。陽品運輸倉庫は運送部門のほか、オートガスタンドなどの経営に加えて、先に紹介したタンクローリー・一般車両の整備点検、高圧ガス容器の検査等、多岐にわたった事業展開をされています。

このことは社史にも関係しますが、昭和四十七年に鈴木社長が同社を設立されたとき、「モノを運ぶだけの企業では将来性がない、運んでいるモノを知らなければ責任を全うできない」と考えられ、社の発展に含みをもたせた「倉庫」という言葉を社名に使われたそうです(ちなみに「陽品」とは、設立当時取り引きのあった「太陽銀行」と「品川燃料」から一文字ずつ

きさに敬服しました。

「納得のいく保険料納付制度、安心できる社会保障制度」の構築は、これからのわが国の国力にもかかわってくるかもしれません。

最後に、鈴木社長の健康法をお聞きすると「飲酒を控えめにしている」とのことでした。言葉には出されませんが、氏の奥さまが不幸にも三年前に他界されたのを契機に、健康にはだいたい留意されておられるようでした。

ご自身の体のメンテナンスも業務の一環に加えていただき、引き続き強いリーダーシップを発揮されることを願っていて、今回の取材を終えました。

陽品運輸倉庫の皆さん、お忙しいなか、ご協力ありがとうございました。

* * *

帰り道には、サッカ一の街として活気づくPR広告が目につきました。

サッカー同様、市原市の活力源としてこれからもますます元気な企業に同社が発展していただきたいと願ってやみません。



LPガスの輸送は「安全・確実・迅速」に